

間近だから、響きあう



サロンコンサート

演奏家の指の動き、息遣いまでつぶさに伝わるような空間で、数十人がともに音楽を聴き、楽しむ。そんなサロンコンサートの、京都や大阪でも趣向を凝らして開かれている。舞台は、演奏家の自宅やマンションの一室。奏者にも聴き手にも新たな発見があり、静かな人気につながっているようだ。現場を訪ね、耳を澄ませてみた。

(尾崎千裕)

自宅開放

京都市北区、大徳寺近くの住宅街にある和風家屋が9日、コンサート会場になった。スイセンなど季節の花が彩る階段で2階へ。40席はすでにお客さんで埋まっていた。

演奏は、この家のあるじ、河野文昭(チェロ)、美砂子(ピアノ)夫妻。



トークを交えての演奏に、和やかな空気が広がった＝京都市北区のアトリエ・ワム

アンノ夫妻。普段は練習室として使う空間を「アトリエ・ワム」と名付け、昨秋からコンサートを始めた。この日の曲目は、ベートーヴェンのソナタ、ヤナーチェク「チェロとピアノのためのおどろき話」など。文昭さんが弾くチェロとの距離が想像以上に近く、驚いた。わずかな指の動きも見える。

合間に文昭さんが、自身が使うチェロの来歴や入手までの経緯などをユーモラスに語る。お客さんから質問も飛び出す。緊張がほぐれ、会場は和やかな雰囲気になりました。チェロを習う中学生の息子らと訪れた京都市の男性は「真正面で、息遣いまで伝わってきた。ホールとはまた違っていました」。

視線・息遣いまで◇リクエスト気軽

河野さん夫妻は、ともにホールで演奏会を開き、音大でも教える実力派だ。しかし、ホールで演奏会を開くとすると、費用や集客も考えなくてはならない。「自宅なら、そのエネルギーを音楽に振り向けることができる」と美砂子さん。9月の初回コンサートのアンケートには「間近で驚いた」「インパクトがあった」といった意見が寄せられ、半分近くが第2回を予約する人気だった。

2カ所みのトイレの案内、雨が降れば傘の置き場所。自宅ならではの苦労もある。毎回、スタッフ1人と京都市の文化ボランティア2人に手伝ってもらうが、すべての段取りは自分たちでしなければならぬ。

それでも、「お客さんの視線や呼吸がわかるので、反応しあっている演奏ができる。こころしかできない演奏会をしたい」と河野さん夫妻。他の演奏家を招くことや、マネアックな企画への挑戦も考えている。

河野 文昭 (こうのふみあき)

京都市立芸術大学卒業。第50回日本音楽コンクール第1位。1982年より文化庁在外派遣研修員としてロスアンゼルスに留学。翌年渡欧しウィーン国立音楽学校にてさらに研鑽を積む。L. ベリオの無伴奏チェロ曲「セクエンツァ XIV」を日本初演する等のソロ活動の他、岡山深弦楽四重奏団、静岡音楽館(AOD)レジデンスカルテット、アンサンブル of トウキョウ、紀尾井シンフォニエッタ東京のメンバーとして国内、海外公演を行う。現在、東京藝術大学教授、中国天津音楽学院客員教授。90年京都音楽賞、92年大阪府文化賞、04年京都府文化賞功労賞等。

河野 美砂子 (こうのみさこ)

京都市立芸術大学卒業。ウィーン国立音楽学校等に留学。88年淡路島国際室内楽コンクール優秀賞。ソロリサイタルシリーズ「シューベルトとシェーンベルク」、ベートーヴェンのヴァイオリンソナタ、チェロソナタ、ピアノトリオ全曲演奏、6回の演奏会シリーズ【モーツァルトに会いたい】にて詩人の谷川俊太郎氏の朗読との共演など活発な演奏活動を行っている。現在、京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師。短歌にも興味を持ち、95年第41回角川短歌賞受賞。04年第一歌集『無言歌』(砂子屋書房)を刊行。同歌集により第5回現代短歌新人賞受賞。

アトリエワム 〒603-8227 京都市北区紫野北舟岡町41

【千本北大路】、または【千本鞍馬口】から徒歩4分。
千本通りから、東に入って4軒目です。

●「千本北大路」、「千本鞍馬口」までの経路

◎ JR 京都駅より、地下鉄「北大路」駅下車(約13分)。

「北大路」駅の、市バス【青のりば】より乗車
([北1]と[37]を除く、すべてのバスに乗車OK)。

「千本北大路」まで約10分。

または、地下鉄「北大路」駅 ⑥番出口より、タクシーで2メーター。

◎ 阪急「大宮」駅下車。

市バス「四条大宮」停留所(北行き・「王将一号店」前)より
[6][46][66][206]にて、「千本鞍馬口」まで約20分。

